

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標「グローバル社会に対応できる人材の育成」

母語・生活言語である国語の力を伸ばすことで読解力・表現力・論理的思考力を育み、国際語である英語の力を伸ばし、国際コミュニケーションの手段を獲得させる。また、将来、世界を舞台に活躍する人材の育成として、日本の歴史や文化、伝統を知り、生まれ育った国について誇りをもって語る力を身に付けさせる。

- (1) 国際教育の推進を通してグローバルに活躍出来る教養を身に付けさせるとともに、習得した幅広い知識や技能を生かして社会をリードする人材を育成する。
- (2) 高い学力や自学自習力の他、自ら課題を見つけ、リサーチ・考察し、その解決法を提案・発信できる力を醸成する。
- (3) 校外の各種団体との連携を図り、地域の教育拠点校として様々な活動に取り組むことを通して地域社会に貢献する。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成及び希望進路の実現

(1) 基礎学力の着実な定着

- ・英語探究科として専門性の高い授業を行うとともに、知識習得型授業と探究型授業をバランスよく組み合わせる。
- ・大学や研究機関との連携による学習、体験型学習に積極的に取り組むことにより、学習に対する関心・意欲を高め、知識・スキルを定着させる。

(2) 専門分野における活用力・探究力の向上

- ・生徒が主体的に国際交流に参加できるよう、姉妹校交流等の企画運営を工夫する。また、国際交流活動を体験型学習やアクティブラーニングの観点から捉え直し、一層の充実を図る。
- ・近隣の小中学校との交流等で、探究テーマに沿ったリサーチを実施し、論文作成・プレゼンテーションなどの課題解決的な学習活動を行う。

(3) 生徒の希望進路の実現

- ・生徒一人ひとりの学習の記録やキャリアパスポートを活用し、生徒の学習履歴や、学校生活に係る意識について把握し、指導・支援する。
- ・外部人材を活用した講演会・講習等を、計画的かつ生徒のニーズにあうよう実施する。
- ・国公立大・関関同立・産近甲龍等の大学現役合格者数を、大学進学希望者の50%以上とする。

過去3年の実績： R1 51.2% (英語科 66.7%)・R2 54.2% (英語科 63.5%)・R3 52.2% (英語科 44.4%) *R3 までは国語科を含む。

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成

- ・部活動と学習を両立させるよう計画的に指導を行い、生徒が自己管理能力を高めることができるよう支援する。
- ・学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう支援する。特にHR活動や人権学習において計画的に指導するとともに、生徒の状況を的確に把握し、指導方法の工夫改善に努める。

(2) 地域に開かれた学校づくりを推進するとともに、異校種間連携を充実させる。

- ・近隣学校園や大学との連携を促進し、教職員間の交流及び高大連携を踏まえた研修を定期的実施する。

3 教員の指導力の向上

(1) ICTを活用した取組みの推進

- ・1人1台端末を効果的に活用し、生徒の学習活動を一層充実させるため、ICTを活用した授業実践に向けた研修の実施や好事例の共有を行う。

(2) 授業改善に取り組むための研究及び研修の充実

- ・学校内外で教材・資料・指導方法についての研究と交流を図り、指導方法の工夫改善に努める。
- ・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、積極的に授業改善のためのPDCAサイクルを的確に回す。
- ・授業アンケート、生徒・保護者向け自己診断を適切に活用するとともに、指導と評価の一体化を図る。

4 働き方改革への適切な取組み

- ・教職員の時間外在校等時間を適正に把握し、安全衛生委員会等で課題を整理するとともに、時間外在校等時間の縮減を図り教職員の健康保持・増進に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 「確かな学力」の育成及び希望進路の実現	(1)基礎学力の着実な定着 (2)専門分野における活用力・探究力の向上 (3)全ての生徒の希望進路の実現	(1)1人1台端末の効果的な活用により、授業の充実を図り、全ての生徒の学力の伸長をめざす。 (2) ・探究活動では関係機関と連携し、専門分野における探究力を高める。 ・コロナ禍により相互訪問は厳しい状況においても、昨年度に引き続きオンラインでの姉妹校交流を実践する。 ・大学、及び関係校からの評価・助言を受け、課題研究指導プログラムの研究開発を伸展させる。 ・探究活動のグループ発表において、協働的な学びを取り入れ、生徒間の交流を図る。 (3) ・3年間を見通した総合的指導計画（学習指導・進路指導・生活指導等）、及び外部講師を招聘したキャリア教育を実践する。 ・生徒のニーズに応じた平日補習や長期休業中の補習体制が行えるよう、校内体制を構築する。	・生徒・保護者向け自己診断「教材や教授法がわかり易く工夫されているので、基礎的・基本的な内容がよくわかる。」を80%にする。 [R3 91.2%] ・生徒・保護者向け自己診断「授業中、応用や高度な内容にも話が及び、新しい発見や興味に繋がる。」を80%にする。 [R3 77.8%] ・おおさかグローバル塾等、外部団体主催による海外派遣・留学等の選考の事前指導を行い合格に導く。[R3 合格者2名] おおさかグローバル塾 1名 Girls Unlimited Program 1名 (大阪大学・在日米国大使館共催) ・生徒・保護者向け自己診断「生徒の適性や希望を生かした適切な進路指導が行われている。」を80%にする。 [R3 87.4%] ・生徒・保護者向け自己診断「平日補習や長期休業中の補習が役に立っている。」を80%にする。 [R3 73.3%]	
2 豊かでたくましい人間性のほぐくみ	(1)知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成 (2)地域に開かれた学校づくり・異校種間連携	(1) ・部活動と学習を両立させるよう計画的に指導する。家庭学習時間確保の把握と指導を行い、生徒の自己管理能力を高める。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実に向け、生徒支援委員会等で定期的に情報共有を行うとともに、スクールカウンセラーや、関係諸機関との連携により、生徒の心のケアを図る。 (2) ・近隣の小中学校と連携した授業を通して、生徒が地域との連帯感・達成感を体得できるよう指導する。 ・外部人材を活用し、人権学習等を充実させ、人としての在り方生き方を学ぶ道徳教育を推進する。 ・社会貢献に取り組む卒業生や専門家による講演及び連携協力を推進する。	・生徒・保護者向け自己診断「ホームルーム活動や学校行事は高校生活に有意義なように計画されている。」を80%にする。 [R3 74.8%] ・生徒・保護者向け自己診断「スクールカウンセラーがいて相談できる環境は、安心感がある。」を80%にする。 [R3 72.3%] ・生徒・保護者向け自己診断「この高校に入学して満足している。」を80%にする。 [R3 75.1%] ・近隣の小中学校との交流を進める。 [R3 中央小学校・東中学校と交流(模擬授業等)] ・生徒・保護者向け自己診断「生徒の意見や悩みを丁寧に聞いてくれる熱心な先生が多い。」を80%にする。 [R3 74.9%] ・生徒・保護者向け自己診断「人権を尊重する教育活動が実施されている。」を80%にする。 [R3 82.3%] ・豊かな人間性の涵養のための講演会を実施する。 [R3 作家・思想家の内田樹先生の講演会を実施]	
3 教員の指導力の向上	(1)ICTを活用した取り組みの推進 (2)授業改善に取り組むための研究及び研修の充実	(1) ・自宅学習に柔軟に対応できる指導方法の工夫改善に努め、学習課題の作成と配信を促進する。 (2) ・新学習指導要領を踏まえ、各教科において指導と評価の一体化について、統一・共有化を進める。 ・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、授業改善のための計画、実践(指導)、評価、改善のサイクルを的確に回す。	・自宅学習用教材を積極的に配信する。オンライン授業に取り組む。 ・生徒・保護者向け自己診断「授業がわかりにくい生徒には、特別な指導等により理解できるように取り計らわれている。」を80%にする。 [R3 78.1%] ・生徒・保護者向け自己診断「学習や学校生活で努力したことに合わせて、評価されていると思う。」を80%にする。 [R3 83.2%] ・1人年1回以上の研究授業を実施する。 [R3 年次研修等一部教員が実施]	
4 働き方改革への取組み	(1)働き方改革への適切な取組み	(1) ・時間外労働の縮減を図る。安全衛生委員会等で時間外労働の数値結果を共有する。 ・部活動においては、適切な休養日を設定し、長時間勤務の縮減に向け学校全体として取り組む	・時間外労働時間の平均を昨年度より1割削減する。 [R3 25時間42分]※4月～2月の平均 ・教員定数減に対応するため、校務分掌の整理統合を進め、合理的な校務の分担を実現する。	